



折返監察員



◆研修の内容

- ① 任務
- ② 監察ポイント
- ③ 監察手順
- ④ 違反監察時の手順 & 方法
- ⑤ 留意点



①任務

- ◆泳者がスタート後、折り返しの間、ゴールの際に規則に従っているかを監察する。
- ◆800m・1500m自由形では、折り返し回数を記録。
コール…800mでの「400」、1500mでの「500」・「1000」
振 鈴…スタート側の最後の折り返し5mから折り返し後5mまで
振鈴にて合図。(400m自由形も行う)
- ◆リレー競技において引き継ぎが競技規則に従っているかを監察する。
- ◆競技が終了した泳者に対して、審判長の指示があった場合、競技中において退水の指示を行う。
- ◆バックストロークレッジを使用した競技会は、バックストロークレッジの設置・取り外しおよび上げ下げを行う。



② 監察ポイント

【スタート後の動作監察】

- ◆ 泳者のスタートから最初の一かきの終了まで、平泳ぎは二かきの終了までを監察する。

〈自由形の場合〉

- ◆ 体が完全に水没していてもよいが、壁から15m地点までに頭は水面上に出ていなければならない。

〈背泳ぎの場合〉

- ◆ 常にあおむけの姿勢で泳がなければならない。
- ◆ 体が完全に水没していてもよいが、壁から15m地点までに頭は水面上に出ていなければならない。



〈平泳ぎの場合〉

- ◆スタート後の一かき目は、完全に脚のところまでかくことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライキックが1回許される。
- ◆最初の一かきの始まりから、体はうつぶせでなければならない。
- ◆二かき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部は水面上に出なければならない。



〈バタフライの場合〉

- ◆最初の腕のかき始めから体はうつぶせでなければならない。
- ◆両腕は水中を同時に後方へ運び、水面の上を同時に前方に運ばなければならない。
- ◆スタート後の一かき目の前に、一回の平泳ぎの足の蹴りは許される。
- ◆水面上に浮き上がるため、水中での数回のキックと一かきが許される。
- ◆体が完全に水没していてもよいが、壁から15m地点までに頭は水面上に出ていなければならない。



【折り返しの動作監察】

- ◆泳者の折り返し前の壁へのタッチ前の最後の一かきの始めから、折り返し後の最初の一かきの終了まで、平泳ぎは二かきの終了までを監察する。

〈自由形の場合〉

- ◆体の一部が自レーンの壁に触れなければならない。
- ◆体が完全に水没していてもよいが、壁から15m地点までに頭は水面上に出ていなければならない。

〈背泳ぎの場合〉

- ◆体が完全に水没していてもよいが、壁から15m地点までに頭は水面上に出ていなければならない。



- ◆体の一部が自レーンの壁に触れなければならない。
- ◆折り返しの動作中は、肩が胸の位置に対して垂直以上に裏返しになってもよい。その後、ターンを始めるために、速やかに一連の動作として、片腕あるいは同時の両腕のかきを使用することができる。足が壁から離れたときには、あおむけの姿勢に戻っていなければならない。

〈平泳ぎの場合〉

- ◆折り返し後の一かき目は完全に脚のところまで持って行くことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。折り返し後に、最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライキックが1回許される。
- ◆二かき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部が水面上に出なければならない。



- ◆折り返し動作中は、壁に手がついた後、うつ伏せ状態でなくてもよいが、足が壁から離れたときには、うつぶせ状態でなければならない。
- ◆肘は、折り返し前の最後の一かきと折り返しの動作中は水中に入っていないなくてもよい。
- ◆折り返しタッチは、水面の上もしくは下で、両手が同時に、かつ離れた状態で行わなければならない。
- ◆折り返し前は、足の蹴りに続かない腕のかきだけになってもよい。最後のサイクルの間に頭が水面上に出れば、タッチ前の最後の一かきの後は頭が水没してもよい。



〈バタフライの場合〉

- ◆折り返し動作中は、壁に手がついた後、うつぶせ状態でなくてもよいが、足が壁から離れたときには、うつぶせ状態でなければならない。
- ◆折り返しの直前は、一かきを行わずに一回の平泳ぎの足の蹴りは許される。また、折り返し後の一かき目の前も、一回の平泳ぎの足の蹴りが許される。
- ◆折り返しは、水面の上もしくは下で、両手が同時に、かつ離れた状態で行わなければならない。
- ◆水面に上がるため、水中での数回のキックと一かきが許されるが、かいた手は水面の上を同時に前方に運ばなければならない。
- ◆体は完全に水没してもよいが、壁から15m地点までに、頭は水面上に出ているなければならない。



【ゴールタッチの動作監察】

◆ゴールタッチの前の最後の一かきの始めから、ゴールタッチまでを監察。

〈自由形の場合〉

◆体の一部が壁に触れなければならない。

〈背泳ぎの場合〉

◆あおむけの姿勢で自レーンの壁に触れなければならない。

〈平泳ぎの場合〉

◆ゴール前の最後の一かきでは、肘は水中に入っていなくてもよい。



- ◆ゴールタッチは、水面の上もしくは下で、両手が同時に、かつ離れた状態で行わなければならない。
- ◆ゴールタッチの際は、足の蹴りに続かない腕のかきだけになってもよい。最後のサイクルの間に頭が水面上に出れば、タッチ前の最後の一かきの後は頭が水没してもよい。

〈バタフライの場合〉

- ◆ゴールタッチは、水面の上もしくは下で、両手が同時に、かつ離れた状態で行わなければならない。
- ◆ゴールタッチの直前は、一かきを行わずに一回の平泳ぎの足の蹴りが許される。



【リレー競技の引き継ぎ監察】

◆リレー競技の先の泳者がスタート台下の壁にタッチする以前に、次の泳者の足先がスタート台・プールデッキまたはプールの壁から離れていないか監察する。

※リレー引き継ぎ判定装置を使用している場合、判定装置の結果が優先される。

※引き継ぎを監察する際に、次にスタートした競技者のスタート後の動作監察がおろそかになりやすいので注意する。

【競技中における他の競技者の不法入水の監察】

◆個人競技・リレー競技とも、競技中に他の競技者が不法入水することがないか監察し、入水するような行動と判断した場合に注意を促す。



【レーン逸脱の監察】

- ◆競技中、体の中心線(特に頭を見る)が、他のレーンに出ることがないか監察する。

【その他】

- ◆レーンを間違えていないかを確認する。
- ◆ゴール後に、他の泳者が泳いでいるにもかかわらず、競技役員の指示でなく他のレーンに侵入しようとしていないかを確認する。



③手順

【スタート後の動作】

- 1)泳法の種目にかかわらず、監察手順は共通となる。
- 2)監察に関しては、プログラムや筆記用具は持たない。
- 3)審判長の長いホイッスルで起立し、予め決められた地点まで進み静止する。(1～2歩で台に上られる地点)
- 4)自席から離れている場合は、長いホイッスルに間に合うようなタイミングで起立します。
- 5)出発合図後、速やかに台上に上がり、競技者のスタートから最初の一かき、平泳ぎは二かきの終了までの動作確認を行う。
※背泳ぎの場合、2回目の長いホイッスルの間も静止地点で留まり、出発合図後、速やかに台に上がる。(レッジ無)
- 6)監察後、速やかに静止地点に(自席)戻る。



【バックストロークレッジを使用した競技会での背泳ぎ およびメドレーリレー種目時の動作】

バックストロークレッジを用いる場合、スタート側の折返監察員が設置、取り外しをする。

※0レベルがっているかを確認し、あっていない場合は調整する。

- 1) 審判長の長いホイッスルで起立し、予め決められた地点まで進み静止する。
- 2) 2回目の長いホイッスルで台上に上がり、選手の両足のつま先が壁に触れているか確認する。触れていない場合は触れるように指示する。(確認後、速やかに正面を向く)
- 3) 競技者のスタートから最初の一かきの終了までの動作を監察する。



- 4) 監察後、速やかにレッジをスタート台のバックプレート後方（メドレーリレーは足元）に置く。
- 5) 前の組がゴールしたら、速やかにバックストロークレッジを水中に入れ、自席に戻る。
- ※折り返し側の監察員も同様に審判長の長いホイッスルで起立し、予め決められた地点まで進み静止する。

折返監察員⑨ 折返監察員⑪ 折返監察員⑫ 折返監察員⑭

★バックストロークレッジ

0調整方法①

★バックストロークレッジ

取り外し方法

★バックストロークレッジ

0調整方法②

★バックストロークレッジ

取り付け方法



【折り返しの動作】

- 1) 泳者が、折り返しの壁から10～15m手前時点で準備し、5m手前ではすでに台上に上がり監察の体勢をとる。
- 2) 折り返しの壁へのタッチ前の最後の一かきの始めから、折り返し後の最初の一かき(平泳ぎは二かき)の終了までを監察する。
- 3) 監察後、速やかに静止地点(自席)に戻る。

折返監察員②

折返監察員③



<800m・1500m自由形時の追加事項>

(コール)

800m自由形での途中、400mにおいて泳者へ「400」、1500m自由形での途中、500m・1500mにおいて泳者へそれぞれ「500」、「1000」を伝える。

コールは、折り返し前の5m手前から折り返し後の5mまで、泳者の呼吸のタイミングを見計らって大きな声で繰り返す行う。

(振 鈴)

泳者がスタート側の最後の折り返し5m前に来たときから折り返し後5mまで、注意を喚起する合図(振鈴)を行う。

振鈴は、強く、速く、また連続して行う。その際、規律の姿勢を保持した状態で行う。



【ゴールタッチの監察】

- 1) 泳者が、ゴール側の壁から10～15m手前に来たときに準備し、5m手前ではすでに台上に上がり監察の態勢を整える。
- 2) ゴールタッチの前の最後の一かきの始めから、ゴールタッチまでを監察する。
- 3) 監察後、速やかに静止地点(自席)に戻る。

折返監察員④



【違反の監察】

- 1) 台上で折返監察主任に正対して片手を小さく上げてその旨の合図を送る。
- 2) 折返監察主任（リザーブ）と交代して、審判長に報告。審判用紙に種目、レーン、違反等の内容を記入し、署名の上、審判長に提出する。
- 3) 通常の監察任務に戻る。



主催競技会では、
折返監察員が、折返監察主任へ違反アピールを行い、違反の詳細を伝える。折返監察主任は、審判長へ違反内容を伝え、審判長が審判用紙を記載する。



④違反アピールについて

【折返監察主任へのアピール手順】

- ①折返監察主任に正対して小さく手をあげる。
- ②組、第レーンなのか。*リレーは第何泳者か。
⇒「1組、第4レーン（第2泳者）」
- ③地点、状況、違反の詳細。(手・足・右・左・何回など)
⇒「●●時、●m地点で、●を●●●した。」

(例) 50m背泳ぎで・・・
25mの折り返し時、20m地点でうつぶせになり、
右手⇒左手の順で2回の手のかきを行ってターンをした。



【折返監察主任から審判長へのアピール手順】

違反のアピールがあったら、審判長へ「折り返し〇〇です、第4レーンより違反のアピールがありましたので確認します」と一報入れる。

①誰から誰への連絡なのか？

⇒「●●側折り返し ●●から審判長へ」

②何組、第何レーンなのか。*リレーは第何泳者か。

⇒「●組、第●レーン(第●泳者)」

③何の違反か。*メドレー競技は何の泳法か。

⇒「折り返し違反です。(●●の折り返し違反です)」

④地点、状況、違反の詳細。(手・足・右・左・何回など)

⇒「●●時、●m地点で、●●●した。」

⑤監察した折返監察員の名前を申告。

⇒「監察は●●です。」



【違反のアピールポイント】

- ①伝え始める時は、トランシーバーのボタンを押して、1・2秒後に話し始める。
⇒最初の言葉が切れて聞き取れないため。
- ②ゆっくり、簡潔に話す。
⇒聞き取り間違い、違反の間違いがなく、競技の進行の妨げにならないようにするため。
- ③違反の詳細を伝える時は、審判用紙にある言葉を使い、出来るだけ詳しく伝える。
⇒問合せや抗議があった時に説明ができ、第3者でも理解出来るようにするため。
- ④アピールは審判長が競技成立をする前に行う。
⇒競技成立後に失格の判定はできない。

【参考資料】

◆審判用紙 ◆失格理由一覧 ◆審判用紙記載例 & 通告文言



【留意点】

- ◆ある競技者が極めて疑わしい泳法や動作を行った場合は、審判長に報告する。
- ◆失格の判定は、競技者にとって重要な影響力をもつことになるので、その重要性を認識し、泳法その他の競技規則について、十分精通しておく必要がある。
- ◆違反の監察は、前後の状況も含めて詳しく観察し、どのような状態でその違反がなされたかを、詳細に説明・再現できるようにしなければならない。
- ◆プールの水面・水中に、競技に支障をきたすおそれのあるものが浮遊していたら、速やかに審判長に報告する。



- ◆競技会によっては半自動グリップの操作をする場合がある。
- ◆競技終了後、審判長の指示のもと、泳ぎ終わった後の、選手の待機・退水の指示、誘導を行う。
- ◆折返監察員は、競技場内に位置する最多数の役職であり、その行動は競技会の雰囲気をはっきりと左右するので、交代時の移動を含め、常に整然とした行動をとる。